暑熱対策～牛～

令和7年6月 中央家畜市場通信 宮古農業改良普及センター

①暑さをやわらげる、②食べさせる

暑い日が続いています。既に対策済みと思いますが改めて牛の暑熱対策を確認し、実施していないことがあれば対策しましょう。

暑さの影響は？

２５℃以上で暑熱の影響が出始めます（体温上昇、息の乱れ）

- エネルギー消費の増加（**消耗**）
- **食欲減退**

} **発育停滞**

- **水分摂取量増加**
- **繁殖成績**（受胎率）**の低下**

暑くて消耗が激しい、けれど食べられない、と**負の連鎖**になりがちで、繁殖や発育が悪くなります。少しでも良くなるよう対策しましょう。

飼養管理から～少しでも食べるよう～

- **飲水量は適温時の２倍飲む**

→水を良く飲めるように！**水槽・ウォーターカップ**は**常にキレイ**に！（夏はなるべく毎日掃除）

- **残った配合飼料は暑さですぐに悪くなる**

→「もったいない」かもしれませんが、少しでも悪くなると食べようとしません。**必ず取り除き、新しいエサ**をあげましょう。

・少しでも多く食べさせる工夫を！

→涼しい時間帯に給与する、**牧草は**長いままではなく**切って食べやすく**する。

環境から～牛舎周りを見直す～

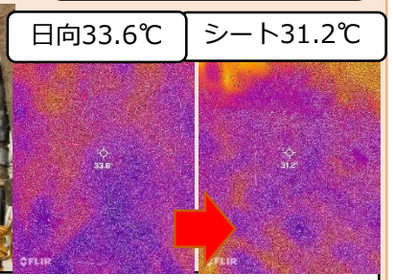
牛舎構造で難しい場合もありますが、できるだけのことはやりましょう。大きめの扇風機を設置する、掃除するだけでも違います。

寒冷紗による日除け

換気扇・送風機の設置・常時稼働

ある農家では、コンプレッサー等を活用した吹き飛ばし掃除後、**30%風量向上！**

白色塗装による反射



遮熱シート・断熱材の活用

繁殖サイクルを回してガッチリ ～見えない儲けをわしづかみ！～

第１回は、「繁殖管理は経営管理！」分娩間隔を短縮させてガッチリ儲けようという内容でした。

今回は、分娩間隔短縮のための具体的な管理方法を紹介します。

県飼養管理マニュアルのダウンロード→

第2回 繁殖の記録

分娩間隔短縮⇒空胎期間短縮です。そのためには、

●分娩後初回授精日数を早めること、●授精後の再発情を見逃さず再授精すること、です。

どんなに忙しくても、やるべき繁殖管理を忘れないように「**記録**」しておくことが肝心です。

黒板、牛名板、繁殖カレンダー、スマホのアプリなど、どんなものでもOKです。

記録する主な項目は次のとおりです。

名号、生年月日、血統、分娩日、産次、授精日、妊娠鑑定結果、分娩予定日 など

また、次の記録及び観察もおすすめです。

①分娩後40日目 ⇒ 初回発情観察を念入りに。授乳している場合は、子牛の便の変化も観察。

②分娩後60日目 ⇒ 過ぎても初回授精できていなかったら獣医師に診てもらう。

③次回（次々回）発情予定日 ⇒ 前後数日は念入りに発情観察する。

④授精後●●日目（※●●は妊娠鑑定できるようになる日数）

⇒ 過ぎたら獣医師に妊娠鑑定してもらう。

そして、「卵巣嚢腫になった」「２回治療した」「発情徴候を示さない」など、前回の受胎までの記録も残しておくと、その牛の傾向が分かって、とても参考になります。

分娩間隔短縮のために、「**記録と観察**」を徹底しよう！

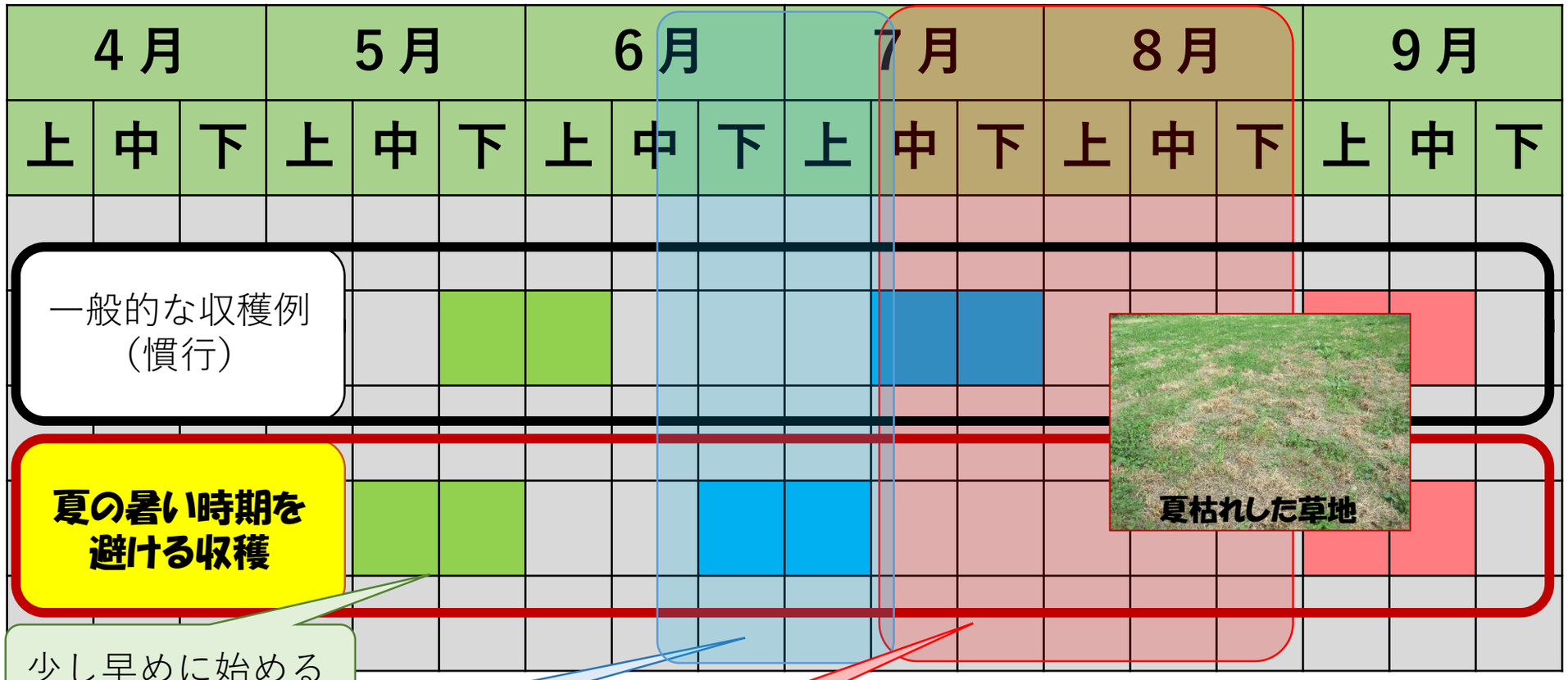
暑熱対策～牧草～

令和7年6月 中央家畜市場通信 宮古農業改良普及センター

①暑熱期を避ける、②高めに刈る

暑さで参っているのは牛や人だけではありません。ここ数年の酷暑により、**２番草収穫後に牧草の夏枯れが発生**しています。今年も暑いので、夏場の草地管理について確認し、実施しましょう。

①暑いときに刈らない、２番草は７月上旬までに刈る



夏枯れした草地

※圃場条件、生育具合などで収穫時期は変動します。草と天候を見て判断を。

暑い時期は作業しない

刈取り後に太陽光が地面に当たり熱が直接伝わってしまう。

２番草後の追肥は肥料焼け防止のため曇天や降雨前後に。

②２番草の刈取り高さは10～15cm

拳10cm、刈高5～6cm

で15cm

・**低く刈る**と、**再生に必要な栄養部までなくなる**、地面がむき出しで**熱で焼ける**、など悪影響があります。

・モアコンなどは**刈高を調整できる器具を装着**しましょう。農機具販売店等へ御相談ください。

③暑さに強い草へ

夏枯れ圃場には、**草地更新**や**追播**が**必要**です。

これを機に暑さに強い草を考えましょう。

※草種による耐暑性

強
- トールフェスク
- リードカナリーグラス
- オーチャードグラス
- ペレニアルライグラス

弱
- チモシー

⇒耐暑性が強いものは嗜好性が低い点に注意

※比較的暑さに強い品種

OG　まきばたろう
　　まきばゆうか
　　きよは

PR　なつごしペレ